

2024年11月16日

第65回全国スポーツ推進委員研究協議大会in宮崎

テーマ:「**既成概念からの脱却**」～宮崎でともに創る新たなスポーツの世界～

林 但

11月14日(木)15日(金)の両日、宮崎市ひなた武道館他で行われました。スポーツ推進委員や都道府県・市町生涯スポーツ担当など3000名を超える方が出席いたしました。同じ宮崎市でダンロップ・フェニックスゴルフ大会が行われており、知事や市長は出席せず代理の方が、ホテルやタクシー他でもゴルフの話題が先の状態でした。以下に気づいたこと他を記載いたします。

1. アトラクション; 今までと異なり宮崎犬の着ぐるみによる歓迎パフォーマンス

2. 表彰

神奈川県及び横須賀市は内数

名称	全国	神奈川県	横須賀市	備考
文部科学大臣表彰	81	8	0	
全国スポーツ推進委員連合会 優良団体表彰	38	1	0	
同上 功労者表彰	179	15	1	池田正英氏
同上 30年勤続スポーツ推進委員表彰	278	23	0	
同上 一般賛助会員(団体含む)	39	—	—	

3. 特別講演 **演題「スポーツの力と地域社会」**

講師 増田明美氏(スポーツジャーナリスト/大阪芸術大学 教授)

・出身は千葉県いすみ市であるが結婚の相手が宮崎県の方、また、スポーツの取材でよく宮崎に来られていた縁で観光大使も務めておられるとの事。話題や気づきも多いため箇条書きに記入します。

- ① 今取り組んでおられることのひとつが、障害ある方(ダウン症)と中高生や高齢者などとの記録会の実施。**多様性や共生社会を考えるきっかけ**として宮崎から全国に発信。
- ② 2020年以降、**健常者知的・身体・聴覚障害などの方が一緒にやるスポーツ大会で多様性**に注視。
- ③ 千葉県成田高校の1年後輩がスポーツ庁長官の室伏広治氏。長官が進める取り組みのひとつが**スポーツの街。横須賀市も昨年11月に受賞(今神奈川県では唯一)**している。
- ④ 千葉県いすみ市では、ハーフマラソンを行っている。始めたころは参加の方は少ない、沿道の応援の方も少ない。ならば沿道に案山子をおいて応援を始めた。この案山子を見に来る人が応援に来るようになる。併せて「ウォーキング」の部も同時に行うことで参加者が増えた。スポーツの力であり、マラソン大会だけでなく運動習慣はウォーキングでもできる。**みんなが元気になる、地域の活性化**にもつながる。
- ⑤ 「オール陸上競技」健常者・知的・身体・聴覚障害者と子供や高齢者など色々な人が一緒にスポーツをやる。**地域を元気にするのは「スポーツ」 スポーツ推進委員も元気!**
- ⑥ パリのパラリンピックを見に行かれてびっくり、7万人収容の競技場は満席。パラスポーツの父「グッドマン博士」のことは、「**失ったものはかぞえるな、残されたものを最大限にいかせ**」
- ⑦ 貧しい国の支援例えば、ラオスやトーゴでランニングやサッカーの取り組み事例から、**出来なかったことができたことはスポーツの力。スポーツは自分でやって楽しい、みんなが元気になる、街が元気**になる。みんなできましょう!

4. シンポジウム **テーマ:「これまでのスポーツ これからのスポーツ」**

15 日の分科会に備え、コーディネーター/松尾哲矢(立教大学教授)、シンポジスト/工藤康宏(武庫川女子大学教授・兒玉友(日本福祉大学准教授)・岡本真奈美(宮崎県スポーツ推進協議会会長)が各 20 分間の活動紹介と討議があった。

気にかかったキーワードなどを挙げると、①運動実施率は成人が 52%、障害ある方 32.5%②中学生で運動をしていない人男子 11.3%女子 25% ③平均寿命と健康寿命の間に 10 歳の差がある。働き盛りが運動をしていない。⑤**自発的に楽しむスポーツや人に合わせるスポーツを考えて行く必要がある。**⑥既存のスポーツにとらわれず、体を動かす:階段の昇降・庭いじりなどや**見るスポーツにも取り組む。**⑦今、小学生(940 万人)より**障害者(1160 万人)の方が多**い⑧障害者スポーツは誰でもできるように工夫されている。これに取り組んだら⑨**宮崎県は推進委員が男女 50:50**である。会長の延岡では定例会議の時に **30 分実技研修**など行っている。⑩今までに足りなかったのは、軽い運動やアイスブレイクでまずは身近な人に試してみる。得意な人(1芸に秀でた人)を探す⑪**ピンチはチャンス、自分も楽しむことが大切。**

5. 分科会(15 日 9:45~11:45)

昨日のシンポジウムを踏まえ 3 つの分科会があった。3つは関連している、第1分科会(「つくる/はぐくむ」視点でのスポーツ推進)、**第2分科会(「あつまり、ともに、つながる」視点でのスポーツ推進)**第3分科会(「誰でもがアクセスできる」視点でのスポーツ推進)があったが、横須賀市は第2分科会に参加した。

(1)発表1:新富町 町長が発表「サッカーによるまちづくり」

・5 年でなでしこリーグで 1 部優勝を達成。方法は地域おこし協力隊が総務省の交付税を獲得、地域おこし協力隊が企業版ふるさと納税制度活用したこと。「ムリ」とは言わない、一人ではできないので**情熱をもって仲間やお客様他を獲得。**選手が試合の合間に、学校へ授業に、農業のお手伝いに、広報活動に、健康体操の指導に向かい住民とむきあう。

(2)発表:宮崎大学工学教育研究部機械知能工学プログラム 山子剛准教授

「楽しみながら身体を動かす新感覚ロボットシステム「ロロボット」の社会実装」

・「**健康寿命の延伸に貢献する医工連携バイオメカニクス研究の推進と社会実装**」に取り組んでいる事例で、運動器の持つ力学的機能を解明する基礎的な研究からロコモティブシンドロームの予防、スポーツ動作の計測手法の開発及び分析、ロボット・デバイスの研究開発などまで幅広く活動されている。

(3)発表3:NPO 法人都城ぼんちスポーツクラブ「ぼんちのスポーツ推進」 神河美樹氏

・**スポーツ推進委員は地域総合型スポーツクラブのメンバーでもある。市のスポーツ政策課と一体となって「スポーツ習慣化促進事業」**に取り組んでいる。また、サッカーの FC 東京とも包括連帯協定を結び子供達との教室を 2 回/年行っている。途中肩甲骨の運動など誰にでも使える小ネタも間に挟みながらの話であった。

6. 気づいたこと・感じた事

- (1)宮崎県はスポーツ推進委員女性比率が 50%。会長も女性で大会も細かいところまで気配りがされていた。
- (2)増田明美さんの特別講演やシンポジウムや分科会などから気づきや学ぶところがたくさんあった。
- (3)武道館には宮崎県の9市 14 町 3 村のスポーツ推進委員の活動が A1 くらいの大きさを掲示されていた。今までこういう掲示はなく参考になった。(次ページに一部を掲載)
- (4)コロナ禍を経てライフスタイルなど大きく変化、既存の考え方にとらわれず新たな行動を起こしていきたい。



武道場入り口で受賞者と



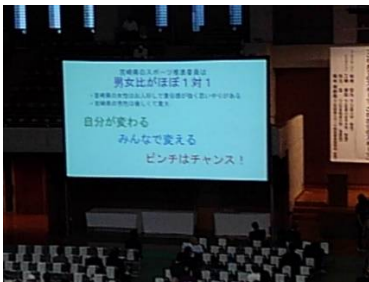
各賞の代表者が表彰を受ける



増田明美さんの講演風景



今までになかった宮崎県内9市13町4村の活動内容紹介パネル(冊子に掲載すればよかったのに！)



シンポジウム



シンポジウムまとめ



会場の最寄り駅「木花駅」無人駅



県の受賞者祝賀会 110名を超える



受賞者一言あいさつ



県・市町事務局のあいさつ



2日目 分科会の発表資料1



資料2



資料3